

## 子供たち一人一人を大切に作る学校づくりに向けて

校長 宮田 俊明

猿楽小学校では、「子供たち一人一人を大切に作る学校づくり」を今年度の重点課題として取り組んでいます。これまでも保護者のみなさまにはアンケートをはじめ、様々ご協力いただき、ありがとうございます。頂戴した貴重なご意見を学校改革に向け、生かしてまいります。また、教職員に対しては先日、以下の2点について指導を行いました。今後も、児童・保護者アンケート等に寄せられました声を教職員一同でしっかり心に刻み、子供たちに寄り添った指導を進めてまいります。

### 学校経営方針の再確認

年度当初、教職員に示す学校経営方針の中に子供たちを大切に作る視点の言葉があり、その言葉を全教職員で改めて確認をしました。以下がその言葉となります。(一部抜粋)

- ・自分を大切にするとともに、他者を大切に作る温かい心
- ・よい点の積極的な評価により、差別や偏見のない温かな人間関係をつくる。
- ・様々な場面で児童一人一人に活躍の機会を与え、自己有用感を高める。
- ・子供たちの思いを受容的に受け止め、温かな人間関係を大切に作る。
- ・子供たち一人一人に、教職員から声掛けや挨拶をする。
- ・一人一人の子供に愛情を注ぎ、目を掛け、声を掛け、心を掛けていく。
- ・特別な支援を必要とする子供について一人一人に応じた適切な支援を行う。
- ・いじめ、体罰を許さない。
- ・自分の思いをだれもが発言できる学級をつくる。
- ・分かりやすく・達成感のある授業
- ・学ぶ楽しさでできた喜びを実感できる授業
- ・「褒めて育てる」指導により、子供たちの自己有用感を高め、自信をもって自分を表現できる学校・学級づくり
- ・互いの違いを認め合える学校・学級づくり
- ・子供と向き合う時間を確保し、児童理解を深め、一人一人を大切に作る教育活動の実施

### 教師と子供との関わり

人権に関する指導資料を活用し、子供たちの人権を尊重した関わりについて、今一度見直しを行いました。

以下、「東京都人権教育プログラム」より一部抜粋

#### 児童の呼び方

児童に向かって、「お前たちは…」と呼んだり、あだ名や名前だけで呼び捨てにしたりすることはないでしょうか。このような呼び方を親愛の情の表れと言う人がいます。しかし、親愛の情は、教職員と児童相互に通じ合える心の交流の上で育まれるものです。一人一人の児童はかけがえのない存在であり、人格を尊重するという趣旨から、名前を呼ぶときは、あだ名や呼び捨てにせず敬称を付けて呼ぶことが大切です。

#### 児童に対する不用意な言葉

児童に向かって、「何でこんなことができないの。」などと言うことがありますか。できなかつたり、分からなかつたりする原因は児童にあるのでしょうか。児童の実態や発達段階に応じたきめ細やかな指導を行っているかを、まず、教師自身が問うべきでしょう。「一緒に考えてみよう。」「○○するとできそうだね。」という共感的で見通しのもてるような指導を児童は待っているのです。

